政策番号	7	政策分野	スポーツ

基本方針	「だれもが，いつでも，どこでも，いろんなかたちでスポーツやレクリエーションに親しめる環境を，みんなで支え合うまちづくり」を関係団体（地域のスポーツボランティア団体，競技団体，学校，企業など）や指定管理者と行政が一体となって進める。そのことにより，市民ひとりひとりがスポーツやレクリエーションそのものを楽しむことはもちろん，健康や感動など市民生活に豊かさをもたらすとともに，環境，教育，観光，経済などさまざまな分野の京都のまちづくりをより魅力あるものにする。

担当局	文化市民局	共管局	

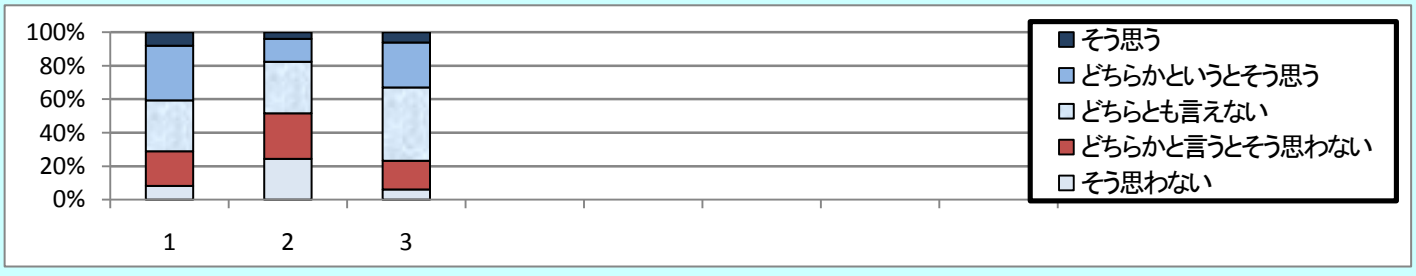
政策の評価

1　客観指標評価

	指標名	24年度評価値	32年度目標値	年度	23年度	24年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	週1回以上運動やスポーツをする市民の割合（%）	47.2	65	-	-	48.4	47.2	50.0	94.4%	b
2	市内でプロスポーツやトップスポーツを直接観戦した市民の割合（%）	27.3	30%以上	-	-	24.4	27.3	25.0	109.2%	a
3	スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合（%）	11.8	10	-	-	3.1	11.8	3.8	310.5%	a
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価					－					a

2－1　市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		年度	23年度	24年度
1	気軽に体を動かしたり，スポーツやレクリエーションを楽しんだりする機会がある。	-	c	c
2	プロスポーツやトップレベルのスポーツに身近に触れる機会がある。	-	d	d
3	スポーツイベントや運動会，レクリエーションなどの活動を，スタッフやボランティアとして支えるひとが増えている。	-	c	c
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価			c	c



2－2 政策の重要度（27政策における市民の重要度）

年度		23年度		24年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	25	6.7%	24	7.5%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
【客観指標】・週1回以上運動やスポーツをする市民の割合は，前年度と比較し，わずかに減少したものの，本市のスポーツ施設の利用件数は増加していることや，5割近くの方が週1回以上運動やスポーツを楽しんでいることから，b評価となった。 ・市内でプロスポーツやトップスポーツを直接観戦した市民の割合は，本市におけるプロスポーツ・全国規模大会の開催日数が増加していることなどから，前年度から増加し，a評価となった。 ・スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合は，参加者，応援者，市民が一体となって楽しめる大会として開催した「京都マラソン2012」を，多くのボランティアの方々に支えていただいたことにより，目標値を大きく上回り，a評価となった。 【市民の実感】・市民の実感については，全体として昨年と同様の評価であった。 ・トップレベルのスポーツに接する機会に関する設問に対し，やや否定的な回答が多いほか，他の設問に対しても多数回答が「どちらとも言えない」となっている。 【総括】・客観指標が市民の実感を上回る結果となった。 ・スポーツの魅力を市民に実感していただく必要はあるものの，トップスポーツの観戦機会などは着実に増加している。 ・こうしたことを総合的に勘案し，この政策の目的はかなり達成されていると評価する。		23年度	C
		年度	-

今後の方向性の検討

＜この政策を構成する施策とその総合評価＞

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
			23	24	
0701	それぞれの年齢や個性，環境に応じてスポーツやレクリエーションを楽しんでいるまちづくり（「するスポーツ」）	-	C	B	95
0702	トップレベルのスポーツに身近に触れられているまちづくり（「みるスポーツ」）	-	C	C	97
0703	多様なスポーツ活動を支え合っているまちづくり（「支えるスポーツ」）	-	C	B	99

＜今後の方向性＞

・それぞれの年齢や個性，環境に応じてスポーツやレクリエーションを楽しんでいるまちの実現に向け，施設の効果的・効率的な整備や，スポーツを楽しむ機会の提供，それらを支える人材の育成に取り組む。

・トップレベルのスポーツに身近に触れられているまちの実現に向け，競技環境と観戦環境の充実，京都マラソンなどのスポーツイベントの開催，プロスポーツの観戦機会の提供に取り組む。

・多様なスポーツ活動を支え合っているまちの実現に向け，誰もが利用しやすい施設の提供，スポーツを支える仕組みづくり，スポーツを支える組織の人材の確保・育成に取り組む。

政策名	7	スポーツ

指標名	週1回以上運動やスポーツをする市民の割合（%）

担当部室	市民スポーツ振興室	連絡先	３６６－０１６８

1　指標の説明

週1回以上運動やスポーツをする市民の割合

2　指標の意味

「するスポーツ」をいろんな形で楽しめる環境が作られていることを示す指標

3　算出方法・出典等

算出方法：20歳以上の市民3,000人を対象としたアンケートで1年間に週1回以上運動やスポーツをしたことがあると回答した市民の割合

4　数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成24年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	47.2	65	京都市市民スポーツ振興計画

	前回数値 22年度	最新数値 23年度	推移	単年度目標値 数値	根拠	達成度
数値	48.4	47.2	1.2ポイント減	50.0	22年度現況値と32年度目標値から当該年度達成すべき数字を等比的に算出	94.4%

	全国順位	中長期目標 数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考	

5　評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：80%以上～100%未満
c：60%以上～80%未満
d：40%以上～60%未満
e：40%未満

6　基準説明

当該指標については，目標達成以上をａ，以下を20%刻みで基準を設定した。

7　評価結果

	23	24
-	-	b

指標名	市内でプロスポーツやトップスポーツを直接観戦した市民の割合（%）

担当部室	市民スポーツ振興室	連絡先	３６６－０１６８

1　指標の説明

市内でプロスポーツやトップスポーツを直接観戦した市民の割合

2　指標の意味

トップレベルのスポーツに身近に触れられ，「みるスポーツ」をいろんな形で楽しめる環境が作られていることを示す指標

3　算出方法・出典等

算出方法：20歳以上の市民3,000人を対象としたアンケートで1年間にプロスポーツやトップスポーツを直接観戦したことがあると回答した市民の割合　出典：事業担当課調べ

4　数値

10年後の（平成32年度）目標値	平成24年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	27.3	30%以上	京都市市民スポーツ振興計画

	前回数値 22年度	最新数値 23年度	推移	単年度目標値 数値	根拠	達成度
数値	24.4	27.3	2.9ポイント増	25.0	22年度現況値と32年度目標値から当該年度達成すべき数字を等比的に算出	109.2%

	全国順位	中長期目標 数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考	

5　評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：100%以上
b：80%以上～100%未満
c：60%以上～80%未満
d：40%以上～60%未満
e：40%未満

6　基準説明

当該指標については，目標達成以上をａ，以下を20%刻みで基準を設定した。

7　評価結果

	23	24
-	-	a

政策名	7	スポーツ

指標名	スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合（%）

担当部室	市民スポーツ振興室	連絡先	３６６－０１６９

１　指標の説明

スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合

２　指標の意味

市民の間で多様なスポーツ活動を支え合う動きが活発化する状況を示す指標(支えるスポーツ)

３　算出方法・出典等

算出方法：20歳以上の市民3,000人を対象としたアンケートで1年間にスポーツ活動に運営ボランティアとして参加したことがあると回答した市民の割合　　出典：事業担当課調べ

４　数値

10年後の(平成32年度)目標値	平成24年度評価値	平成32年度目標値	根拠
	11.8	10	京都市市民スポーツ振興計画

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	3.1	11.8	8.7ポイント増	3.8	22年度現況値と32年度目標値から当該年度達成すべき数字を等比的に算出	310.5%

	全国順位	中長期目標			
		数値	目標年次	達成度	根拠
数値					

備考	

５　評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a:100.0%以上
b:90%以上～100%未満
c:80%以上～90%未満
d:70%以上～80%未満
e:70%未満

６　基準説明

当該指標については，目標値以上を達成したときをaとし,以下10%刻みで基準を設定した。

７　評価結果

	23	24
	-	-	a